

～日本事情Ⅱ～

# 友だちはもう一人の私

G6：金ボウン

## —目次

1. インタビューの動機
2. ユミはどんな人？
3. 出会い
4. 留学生活
5. 日本での生活
6. エピソード
7. インタビュー
  - 7-1 1次インタビュー
  - 7-2 2次インタビュー
8. インタビューの結果
9. 友だちという意味
10. 「日本叙情Ⅱ」を振り返って

## 1. インタビューの動機

ユミちゃんと一緒に住んでいますが、まだ彼女について分からないことはたくさんあります。このインタビューをきっかけにして、彼女についていろいろ知りながら、もっと親しくなりたいと思って彼女にインタビューしたいと思います。

## 2. ユミちゃんはどんな人？

ユミちゃんの性格はやっぱり愉快で前向きな性格だと思います。そしてなんかそそっかしい性格です。インタビューする時もそうだとおっしゃっていただきましたか、それがユミちゃんの魅力だと思います。冷たいと考えた時、その考えを無くしたことがそのそそっかしい性格でした。そそっかしいと言ってもあんまりひどくないし、かわいいと思います。ユミちゃんがそんな性格じゃなかったら、たぶん今みたいにあんまり親しくはなかったと思います。

そしてよく笑います。いつも愉快にいて、見ている人の気持ちまでよくしてくれます。  
人の気持ちをよく考えて心遣いをしてくれてやさしいと思います。

### 3. 出会い

私がユミちゃんに会ったのは大学に入ってからです。

でも、同じ学科なのに3年間あんまり話したことがありませんでした。ユミちゃんはなんか冷たいというか怖そうなイメージで、話しかけることができなかつたです。

そんな彼女と話すきっかけになったのが留学の面接でした。

いっしょに面接を受けることになって彼女といろんなことを話しました。冷たいと考えたのに思ったより活発で面白い人だとその時、考えました。

### 4. 留学生活

面接の後、14人が留学することになりました。

去年より人数が多くて4人ぐらいはアパートにすまなければならないと聞いて、私ではないはずだと思いましたが、結局、アパート暮らしに決められました。

そしてあんまり話したこともなかつたユミちゃんといっしょに住むようになって、ほんとに心配だったです。それに寮まで行けなくなって、留学することやめようかとほんとに落ち込んでいましたが、一緒に住むようになったユミちゃんと話しながら留学しよう決めました。

### 5. 日本での生活

初めて外国に来て韓国語じゃなくて日本語で話さなければいけなくて、ほんとにつらかつたです。でも、ユミちゃんと一緒に住みながら、彼女のおかげで笑うことも多いし、一人だつたらご飯もあんまり食べないはずだつたが、ちゃんと食べることになりました。

私が料理の担当ですが、上手じゃなくて心配しましたが彼女はいつもおいしいって言ってくれます。それで今は初めの料理よりちゃんと食べられる料理になったと思います。

### 6. エピソード

日本に来ていろいろなことで落ち込んでいた私にユミちゃんは毎日「いいことだけ考えて。悪いことよりいいことがもっと多いでしょう」となぐさめてくれました。

いつかユミちゃんが悪いことで落ち込んで、泣いたことがあります。私は何と言つたらいいか困つてしまつて結局何の話もできなかつたです。

でも、次の日、何もなかつたみたいな顔で笑つてユミちゃんは強い人だと考えました。

ユミちゃんも日本に来て私みたいに辛いこともあるし、落ち込む時もあると思います。

でも、彼女はあんまりそんなふりをしないで、いつも笑います。私はそんな彼女がすごいと思います。

そして細かな心づかいはいいです。

私が二日酔いで頭痛があった時、卵スープを作ってくれながら「大丈夫？これ食べて元気になって」と言ってくれました。その時はユミちゃんにとってもありがたく思いました。

そして私はなにかいいものがあると買わないとたまらなくてすぐ買ってしまいます。

それでユミさんといっしょに買い物するときに、ユミさんが買うなと言ってくれて、本当に助かります。買ってしまうと家でまた「なぜこんなものを買ったかな」と悩んでしまいますけど、ユミさんがいてくれて買わないようになりました。

私はなんか話すことが遅いです。私が住んでいた地方の言葉がとても遅くてそうだと思いますけど、ユミさんと同じ地方に住んでいると思ったらそんなこともないみたいです。

それで早口の練習をしています。ユミさんが「私が早く話すようにしてあげる」と言ってくれて期待しています。

1年という時間は長くも短くも感じる時間です。その時間を大事に考えながらユミちゃんともっと親しくなりたいです。それがユミちゃんをインタビューする理由です。

## 7. インタビュー

### 6-1 1次インタビュー

#### (1) 場所、時間

Mister donuts (15:00~16:00)

#### (2) 内容

ボウン：初めて日本に留学して来た時、どんな気持ちだった？

ユミ：うーん、初めて来た時は何もなくて泣きたいぐらいだった。家もなかったし、荷物だけがあって。二度と考えたくない経験だった。

ボウン：そうね。私も家がなくてどこで寝たらいいか心配だった。

ユミ：そうですね？今も考えたら泣きたいよ。

ボウン：まあ、時間が経つと思い出になるよ。私もあんまり考えたくないけど。あ、留学生活はどう？

ユミ：大変なことは時々あるけど、楽しいよ。

ボウン：うん、うん。私も毎日が楽しい。初めは日本でどう生活したらいいかわからなかったけど、今は家もいいし、大家さんも親切だし。

ユミ：うん、大家さん。親切だね。妖精さんみたい。(笑)

ボウン：色々手伝ってくれてね。本当に好き。このアパートで住んでよかったと思う。時々寒いけど。

ユミ：寒いのは大変ね。でも、電気布団があるから、あたたかいじゃん。

ボウン：うん、これがなかったら生きていけないよ。あ、インタビューを続けなきゃ。自分自身についてどう考える。

ユミ：うーん、そそっかしい性格なので、自分の性格を開発する必要があると思う。

ボウン：私もそそっかしい性格だけど、ユミちゃんは前向きな性格だからうらやましい。最近、見てるドラマとかある？

ユミ：ライアーゲームに夢中になっている。でも、最終回がなくて、寂しい。

ボウン：今からの目標とかある？

ユミ：日本語がもっとうまくなりたい。それで、最近ドラマと映画を見ている。J-POPも聞いているし。

ボウン：うん、最近ユミちゃん日本語うまくなった。

ユミ：本当？ありがとう。（笑）

ボウン：インタビューに応じてくれてありがとう。

ユミ：私も楽しかった。

## 6-2 2次インタビュー

### (1) 場所、時間

家 (19:00~)

### (2) 内容

ボウン：先にしたインタビューはちょっと短いと思って、またしようと思っているけど。大丈夫かな。

ユミ：うん、大丈夫だよ。

ボウン：ありがとう。何をしたらいいかな。あ、家族について聞いてもいい？なんか電話とかよくしてるよね。

ユミ：母と父、弟で5人家族だよ。電話のことは母が心配しすぎてね。よく電話している。軍隊に来たみたいだよ。宅配便もよく来ているし。

ボウン：うらやましいな。私はこっちで電話しなきゃダメだけど。電話しても1~2分で終わってしまうし。ユミちゃんはお母さんとすぐ連絡してうらやましいよ。

ユミ：まあ、もうすぐ弟も軍隊に入ってしまうし、たぶん今は寂しく思ってよく連絡してくれると思う。

ボウン：そうね。私の弟ももうすぐ軍隊に入る。ちょっと心配。

ユミ：私も心配。弟まで軍隊に入ってしまうと、母と父だけでね。私の母、涙が多いからよく泣いてしまうと思う。こんな時は韓国に戻りたいな。

ボウン：ここに来ませんかと、聞いたらいいいじゃない？

ユミ：無理よ。食堂しているから。

ボウン：あ、ユミちゃんの親、食堂ではたらいっていると言ってたね。

ユミ：うん。ああ、ガムザタン食べたいな。おいしいのに。ボウンちゃんも韓国に戻ったらぜひ来てくれね。きっとおいしいよ。

ボウン：うん、期待するよ。じゃ、また質問します。ハンバット大学に（韓国での大学です）入学した理由は？

ユミ：秋大じゃなくてそっちか。日本語が勉強したくて、志願した。秋田に留学した理由も勉強のためだし。

ボウン：ユミちゃん、ここに来て本当にちゃんと勉強しているね。

ユミ：勉強のために来ているからね。

ボウン：そうね。私も一生懸命勉強しなきゃ。

ユミ：うん、お互いに頑張りましょ。

ボウン：ここに来てなんか変わったことある？

ユミ：変わったこと？うん...ちゃんと活動していることかな。

ボウン：活動？

ユミ：うん、学科活動。学校活動というほうがいいかな。

ボウン：日本語にすると難しくなる感じが...

ユミ：まあ、学校でするいろんな活動としたらいいじゃない？ミニ講座とか、PICAとか。留学生のための活動。

ボウン：あ、留学生のための活動か。こっちではよく参加しているね。

ユミ：うん、サークルの活動もそうし。私、韓国ではあんまり（参加）していなかったから。こっちではいろんな経験してみたい。

ボウン：私はめんどくさくて家でごろごろしているけど。ユミちゃんは活動的ね。

ユミ：せっかく留学したからね。このまま、何も変わらずに韓国に戻ってしまうと惜しいじゃん。

ボウン：それはそうだけど。確かに、今、為替相場が跳ね上がっているし。留學生活、ちゃんとしなきゃ惜しいよね。

ユミ：うん、ボウンちゃんも家でゲームだけしないで、友だちと遊んで。

ボウン：今はゲームしないよ。ただ、韓国の友だちと話すだけ。

ユミ：インターネット設置して、見えるのはボウンちゃんの後姿だけだよ。終日、パソコンだけ見てるし。

ボウン：日本に来て寂しいから、パソコンで友だちと会って、話しているだけだから。まあ、私もちょっと中毒だと思っているけど。今からはちゃんとユミちゃんに付いて行くよ。

ユミ：うん。スキー場とかかまくら行きましょ。

ポウン：韓国に戻ったら、なんか予定とかある？

ユミ：予定か...勉強、一所懸命しなきゃ。その時ならそろそろ卒業に準備しなきゃだめから。就職活動とかもしなきゃ駄目だし。

ポウン：ああ、就職。韓国に戻らなくなった。

ユミ：だから、ここでたくさん学校活動しなきゃ。

ポウン：また、その話か。就職したい会社とかある？

ユミ：なんかどこに入りたいとかははっきりと考えはしてないけど、せっかく日本語勉強したから、日本語の能力を生かした職業がいいな。通訳もしたいけど、こっちは難しいね。

ポウン：通訳は大学院に入らなくちゃ難しいよね。

ユミ：貿易会社もいいし。とにかく日本語を使いたい。

ポウン：うん、そうね。

ユミ：ポウンちゃんは何かしたいことある？

ポウン：こっちに質問か。うん...そうね。私も今ははっきりしていない。もう一度、受験してソウルの大学に行きたいけど勉強は面倒くさいし。

ユミ：えっ、もう一度、大学に行きたい？

ポウン：まあ、日本語科は未来がないから。

ユミ：未来がないって...

ポウン：（話題をかわって）あ、この先、見ていた라이어ゲームは全部見た？

ユミ：うん、全部見た。

ポウン：どう？面白い？

ユミ：うん、主人公の役がかっこいい～

ポウン：主人公？

ユミ：うん。薔薇のない花屋でも出た。

ポウン：薔薇のない花屋？香取慎吾？

ユミ：いや、お金がない大学生役の...

ポウン：あ、その人か。なかなかかっこいいね。私も見たい。

ユミ：うん、見て。面白いよ。

ポウン：うん、わかった。そろそろインタビュー終わろうか。インタビューに応じてくれてありがとう。

## 8. インタビューの結果

初めのインタビューが短くてまたインタビューしましたが、2次のインタビューに応じてくれたユミちゃんに感謝します。

韓国にいた時はあんまり親しくなかったから、彼女についてよく知りませんでした。留学をきっかけに親しくなって、このインタビューを通じてもっとわかるようになったと思います。

ユミちゃんの最初のイメージは前向きで活発な人で、真剣とは距離があると思ってましたが、ちゃんと未来を目指して努力しているとわかるようになりました。

一緒に住んでいますが、お互いについてよく知っていなかったと思っています。

今度のインタビューでお互いをよくわかるようになってよかったと思います。

## 9. 友だちという意味

昔は一緒に遊んだり、食事したり、買い物をする人のことを友だちだと漠然と考えていました。でも、年をとって考えたのはお互いに配慮しながら、喜びや悲しみを私一人ではなく一緒にいてくれることだと考えるようになりました。

日本に留学して来て、いろんなことを知るようになりましたが、その中、一番はやはり友だちという意味だと思います。

韓国に帰ってもまたユミちゃんと、みんなと親しく過ごしたいです。

## 10. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

今までの授業とは違い独特な授業でした。

始めは6400字なんてどう書いたらいいか全然分からなかったですが、先生のアドバイスとみんなのアドバイスを基にしてこんなに書くようになりました。

また、間違ったこととかアドバイスをしてくれた同じ班だったみんなにも感謝しています。

機会があるとまた聞きたいと思います。

まだ、日本語が慣れていないのでちょっと困った時もありましたが、なかなか終えるようになってよかったと思います。

今度の日本事情Ⅱみたいな授業は初めだと聞いています。

たくさん書いて、たくさん話して日本語の勉強にとっても役に立ちました。

ちょっと残念だったことは他の人とは全然話すきっかけがなかったことですが、他の班と話してよかったと思います。

もう本当に終わりです。

なんかちょっとさびしい感もします。みんなご苦労様でした。

# 楽しさから感じる魅力

G6：成田智尋

## 目次

1. どうしてマイケルにインタビューしたいか？
  - 1-1 出会い
  - 1-2 人物像の仮説
  - 1-3 エピソード
  - 1-4 インタビューの動機
2. インタビューで話したこと
  - 2-1 場所・時間
  - 2-2 内容
3. インタビューを終えて
4. 日本事情IIを振り返って

### 1-1. 出会い

私は、秋田大学で同じサークルに入っている一年生の友達のマイケル・コッツェンさん（匿名）にインタビューしようと考えています。マイケルとは PLAY MISS という軽音楽系サークルの新入生歓迎会で出会いました。しかしながら新入生歓迎会では特に会話をすることもなく、マイケルがどのような人なのかよく分からなかったです。後日、私はサークル室へ行きました。周りのサークルの人とはまだそれほど親しくなかったので、ドキドキしてあまり自分を出せずにいました。そんな中、マイケルはもう先輩たちと打ち解け合っており、サークル室が笑いに包まれていました。私はそのとき「この人はただ者ではない」と思いました。自分自身と比べてしまうというのもあると思うのですが、出会って間もないうちにこれだけ人と上手に交流できる人はすごいと思います。

（ボウンさんから質問されたのですが、軽音楽系サークルではギターやベース、ドラムなどでバンドを組んで定期的にライブをします。また、様々なジャンルの音楽を提供し合って自分の音楽の幅を広げられます。PLAY MISS はロック・ポップス研究会という名義で活動しており、10月に行われた秋大祭では屋外ステージでライブをやりました。）

### 1-2. 人物像の仮説

マイケルは今ではすっかりサークル内のムードメーカーで、いつも冗談を言ったりしてバカそうにふざけて、周りの人を楽しませてくれます。人付き合いもよく、先輩たちにとっても好かれています。食事や遊びの誘いには必ずのって、時には自分の身体を顧みず、朝まで遊ぶことも多々あります。とてもノリがいい人なので、時々むちゃをしてしまうのだ



と思います。そして、自転車で男鹿市まで行くほどの発想力と行動力を持っています。ちょっとした思いつきでこのような大胆な行動に移してしまうところもおもしろい人だと思います。今ある時間をすごく楽しんでいる様子のマイケルをみていると私まで楽しくなります。そして、私と住む所が近いので、夜で帰りが遅い時は自転車で家まで送り届けてくれるという紳士的な一面も掛け合わせています。私はいつもマイケルのおかげで夜に帰る時に寂しい思いをせずに済むので感謝しています。

(男鹿市とは、秋田県の日本海に隣接する男鹿半島に位置します。秋田市から自転車だと4時間かかるほどの距離があります。)

### 1-3. エピソード

私は人間関係で悩み、落ち込んでいたときがありました。以前に相談していたこともあり、それを悟ったのかマイケルは私にいきなり電話をかけてきました。私が「どうしたー？」と聞くと、その内容には触れずに「ただ電話をかけたただだよ。」と言ってただただ優しく明るく話しかけてくれました。私の気持ちを読み取って気を遣ってくれたのだと思います。中野さんがコメントしてくれたように、その時は気づいてくれただけで嬉しかったです。そんなマイケルの思いやりに感動し、元気が出て、これからも頑張ろうと思えました。この印象的なエピソードがきっかけで、ますます「マイケルにはもっと隠れた魅力があるのではないか」と思うようになりました。

### 1-4. インタビューの動機

マイケルはおもしろいので一見バカそうに見えますが、自分の考えをしっかりとっていて、心には熱いものを秘めている人だと思います。それは音楽であったり、人間関係であったりします。マイケルは音楽に対する向上心が強く、先輩方からいろんな話を聞いて自分の知識を増やします。また、人と関わるのが上手で好かれやすいと思うので羨ましいです。また、マイケルが落ち込んでいるのをあまり見たことがありません。逆に私が少し元気の出ないときに会うと、悪ふざけしながらもひたすら笑わせて、元気にさせてくれます。周囲の空気を和ませてくれるおもしろさと優しさとのギャップが魅力的でもあります。また、自分を着飾らないで生きている人でもあると思います。というのは、周りからどう見られているかをあまり気にせず、話をすることで自分を表現しているように見えるからです。

それでも私はまだまだマイケルの内面に触れていないと思うので、インタビューをしてもう少し彼の魅力を探してみたいと思いました。きっと自分にはないものを持っているから魅力を感じるのだと思います。気付いたことをこれからのヒントにして、自分にプラスにしていきたいです。具体的には、人からどう思われても気にしないのか、逆にマイケルが魅力を感じるのとはどのような人なのかを聞いてみたいです。また、中野さんからの質問で、なぜヴォーカルとギターをやっているのか、ずっと音楽をやっていたのか、サッカー部に

はずっと入っていたのか、も聞こうと思います。

## 2. インタビューで話したこと

### 2-1 場所・時間

マイケル宅・15:00~16:15

### 2-2 内容

Q. 人からどう思われても気にしないか？

A. 自分に対する悪口を聞くことは、自分の得にはならないから嫌だ。それを気にしていても自分の為にならないからそこは割り切って全然気にしない。自分自身を変える気はないし、この自分を嫌いなら仕方ない。世の中は広いから嫌いな人がいてもおかしくない。もしも世界の全員の人に「変われよ」と言われたら変わる。別に人に好かれようとは思わない。ふつう嫌いな人とは遊ばないし、第一遊んでくれない。だから生活する上で支障は無い。

Q. 人を嫌うことはありますか？

A. 嫌うことはめったにない。でも嫌ったらとことん嫌う。話してもいいけど、あんまり話したくない。

Q. 例えばどんな人を嫌いますか？

A. ・プライベートなら良いが、公共の場とかでみんながこうしているのに、常識的に考えて外れている人（自分もたまにずれているらしい）。  
・ここはまだ騒ぐとこじゃねえだろってところで変に調子にのる人。  
・そこまで目立たなくていいだろって思う変に目立つでしゃばり。  
→ただ目立つのは良い。おもしろい目立ち方は良いけど、つまらない目立ち方は好ましくない。ex)授業中みんな勉強しているのに、いきなり「わあっ！」とか言う人  
・自分の命を捨てようとする人。  
・辛いことがあったらすぐ「死のう」などという考えを持つ人。

—「命は大事にしましょう。」と言っていました。少しマイケルの情熱さを感じました。

Q. マイケルが魅力を感じる人はどんな人ですか？

A. ・自分の知らない欲しい知識を持っている人。  
→自分が知らないことを聞いた時、パッと答えを返してくれる人はすごいと思う。  
・魅力は無意識に感じていると思う。  
・一緒にいて楽しい人。  
・頑張っている人（前見たときよりすごくなっている人）。

→自分は努力しないから。

(Q. それじゃあマイケルは努力しないの?)

(A. 努力するのは好きでないけど、好きなことなら無意識のうちに努力しているのかも。  
やって楽しければ何でもオッケー。ex)ギター、遊ぶこと)

—この時マイケルは「無意識に人間性を見ているのかも」と言っていました。新たな自分を見つけたのでしょうか?

・来る人は拒まない。ゾンビみたいなゲローっとした人が来たら、そりゃあ嫌ですけど。

・一緒にいて気を遣わなくてもいいと感じる人

→気を遣うのは得意じゃない。初対面の先輩には気を遣う。でもずっとそれが続くと困る。気を遣っていると楽しくないし、おもしろくない。

・冗談が通じる人。

→まともに怒られても困る。

・自分が興味を持っていることにおいて、自分より上にいる人。「すげえ」って思える人  
ex)ギター、テクニック

→自分ができないことを上の人から聞くともっと興味がわく。

—「この質問が一番難しい」と言って困っていたので、次に答えやすい質問をしました。

Q. どうしてヴォーカルとギターをやろうと思ったのですか?

A. 歌を歌うのは小さいころから好きだった。楽器ができなかったから。ギターは曲を聴いていてたいていの人が魅力を感じるんじゃないかな?ただ単純にやってみただけ。あとは曲を作ってみたかった。ギターは曲を作りやすいから。(ちなみに小学生の頃からロック系の曲調が好きだったそうです。)

Q. サッカーはいつからやっていたのですか?

A. 小学校の時、サッカーと野球で迷っていた時に友達から誘われたから。サッカー部にはもともと仲の良い友達が多かった。小・中学校でやっていた。高校では進学コースだったから部活ができなかった。でも放課後にあたりが暗くなるまでずっとサッカーをしていた。もし野球を今もやっていたら人生が変わっていたかも。(というのは、いこの高校生が現在 110km/h を出して活躍中だそうです。本人も結構速い球を投げられるそうです。)

Q. 着飾ることについてマイケル自身はどう思っていますか?

A. 自分は自分。生きるがままに生きる。おしゃれとかしてないから着飾っていないと思う。  
キャバ嬢みたいな「おしゃれした方がいい」と思う人から見たら、自分はただのガキかもな。

(キャバ嬢：キャバクラという飲食店のホステス：客の席に付いて接待をしている女性スタッフ)

Q. 人からどう思われているとか気にしないから、着飾っているわけではないんじゃない？

A. そうかもしれない。

Q. 人付き合いの中で気をつけていることは何ですか？

A. 深刻な時にふざけられないから、少し空気を読む。楽しくないとつまらないからノリを大切にしている。会話の中に下ネタを振り込む(笑)。つまんない奴って思われたくない。

—「普段考えないので限界です。」と、苦し紛れに言っていました。

Q. エピソードの話を聞いてもらい、「気が利く」という話題が出たのですが、自分ではどう思いますか？

A. 気が利くって自分で考えるとやらしい。人それぞれだと思う。

—苦笑いをしていました。確かにこの質問をしたのは間違いだったと反省しました。

Q. 男鹿の件に関して何か教えてください。

A. 「海に行くなら、どうせなら男鹿に行かぬ？」という展開で、思いつきで二人の相棒を連れて行った。男鹿は遠いだけであって、平坦な道だから行くのはたいしてきつくない。男鹿は海がきれいでした。男鹿は心霊的に怖い。チャリで男鹿まで行くことはあまりお勧めしない。ちなみに来年も行くらしいです(笑)。

Q. 今年が一番の思い出は何ですか？

A. いろんな友達ができたことです。あと、海で飲んだ生ビール。

—とても楽しそうに話してくれました。

Q. 友達だと思うのはどういう人ですか？

A. 一回でもプライベートで遊んだ人。遊んでこそ素を出せる。ただ話ただけだと友達じゃない。毎日「よっ！」って話したりする人なら別。

Q. 今不安に思っていることは？

A. 不安には二種類あって、継続的なのと一瞬思っただけですぐ忘れるものがある。継続的な不安は、何年で卒業できるか。あと、来年後輩に対して面倒をみてあげられるか？金銭的な面で不安を感じている。

Q. 好きな音楽は？

A. シヤムシェイド！ロック、メタルが好き。

Q. 嫌いな音楽は？

A. ヒップホップ

Q. あなたにとって音楽とは何ですか？

A. やってて楽しさを感じるもの。勉強よりもやりがいを感じる。気を遣わなくていいから心のなごみになる。

### 3. インタビューを終えて

今回インタビューに快く応えてくれたマイケルにはとても感謝しています。「何でも聞いていいのだよ」と言ってくれるほど協力してくれたので嬉しかったです。ボイスレコーダーを持っていなかったのも手書きでメモしたのですが、書くのが遅いのでゆっくり話して私に合わせてくれました。始めに私の書いたテーマメモ2を見せるとマイケルの顔が微笑ましくなったので、インタビューは良い出だしだったと思います。また、普段なかなか聞けないような難しい質問をマイケルにしたのですが、困りながらも一生懸命に答えを探してくれていました。その優しさもまた、マイケルの魅力なのだと思います。

マイケルがインタビューで答えてくれた内容は、どれも私が感心できるものばかりでした。また、私が思っていた以上の答えももらえました。たとえば、「他人からどう思われても気にしないのか」という質問で「それを気にしていても自分の為にならないからそこは割り切って全然気にしない。自分自身を変える気はないし、この自分を嫌いなら仕方ない。世の中は広いから嫌いな人がいてもおかしくない。」という答えが返ってきたものです。普段あんなにおもしろい人があんな奥の深い答えをストレートに返してくれてくるとは思っていませんでした。私自身は割り切れる時はあるのですが、やはり人間なので人の目をついつい気にしてしまいます。スパッと声に出して言うてしまうマイケルはすごいな、と思いました。良い意味で裏切られました。また、「来る人は拒まない。」という発言にも驚きました。それは、とても心が広いとも言えられると思います。マイケルが人付き合いのうまい理由にはこうしたものも含まれるのだと思います。私はたまに人付き合いを避けてしまうことがあります。面倒くさいと思ったり、その人をどこかで好ましく思っていな

かったりするからです。そんな自分を嫌になることも多々あります。でも、マイケルを見ているとそういう反応があまり表に出ていないので、尊敬しています。

同じ考え、自分の理想としている考えを持つ人には誰も何かしら好感を抱くと思います。それがその人に対する魅力へとつながっていくのではないかと考えました。ちなみに、私が感じる魅力は“楽しさ”からくるものだと思います。無意識のうち楽しさを感じ、相手に好感を抱いているのだと思います。

インタビューで相手のことを知り、どのような気持ちで生活しているのかを理解することで、また新たな気持ちでマイケルと交流していける気がしました。私にとってマイケルは失いたくない友達です。一方通行でマイケルに元気をもらうだけではなく、これからは私もマイケルの力になっていきたいです。

#### 4. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

留学生が分からない言葉を教えているとき、どう表現したらいいか困ってしまった場面がありました。日本人が普段から適した言葉を使っているのか疑問に思うところはあるのですが、何が正しくて何が間違っているのかが分からなくなってしまったのです。日本人でありながら、少し恥ずかしくなったときでもありました。言葉ひとつひとつにはちゃんと意味があり、それはとても大切なコミュニケーションの手段なのだ、ということを再認識しました。

今までひとりのひとについてインタビューをし、それをいろんな人と考え合う、ということをしたことがなかったので良い経験になりました。国際交流できたことも新鮮で楽しかったです。それぞれ人には生き方があって、育った環境によっては価値観が違うこともあるかと思います。でもそれを話して、分かち合おうとすることでお互い理解できるのではないかと思います。それが良いコミュニケーションや文化の理解に繋がると思います。この講義では、国が違っても共感できたり、勉強になったり、と様々な考え方に会えました。また、自分自身を見つめなおす良い機会となりました。これからの糧にしていきます。

# Mysterious Boy

G6: 中野遥

## 目次

- 1 どうしてジャックにインタビューしたいのか？
  - 1-1 ジャックとの出会い
  - 1-2 ジャックとのエピソード
  - 1-3 ジャックの魅力
  - 1-4 ジャックの存在
- 2 インタビュー
- 3 インタビューで分かったこと
- 4 日本事情を受講して

### 1-1 ジャックとの出会い

私がインタビューしたいと考えている人は、同じ高校出身で機械工学科1年次のジャック・スケリントン（匿名）さんです。彼とは高校1年生の時に知り合いました。私の出身高校である不来方高校では3年間のうちに2回クラス替えがあります。2回もクラス替えがあったにも関わらず、3年間彼と同じクラスでした。しかし、3年間ほとんど話すことはありませんでした。たぶん私が話しかけにくい雰囲気を出していたり、友達同士の関わりがあまりなかったからだと思います。そんな中、私と彼が話すきっかけとなったのは、離任式の日私に私が彼に話しかけ、アドレスを聞いたことだと思います。同じ高校からここ秋田大学に進学してきたのはたったの5人だけ……。知っている人がいないのはとても心細かったので、私から声をかけました。その時の彼は快くアドレスを教えてくださいました。

秋田に来て以来、もう1人同じ高校から来ている男の子とも仲良くなり、一緒にお好み焼きパーティーやったり、鍋パーティーをするようになりました。また、彼らとは同じサークルにも入っています。なぜ秋田に来てから仲良くなれたのか、インタビューでは聞きだせたらいいと考えています。

### 1-2 ジャックとのエピソード

彼との印象的なエピソードは、大学のオープンキャンパスの日高校生に対して学科説明をした時のことです。始まってすぐは人が全然来なくてとても暇だったので、「暇なんだけど～」というメールを彼に送りました。そのメールを送った後すぐに忙しくなったのですが、気付くといつの間にか彼は差し入れのお茶とともに来ていました。特に呼んだわけでもないのに、来てしまった彼はとても不思議です。そして、彼の行動はいまいち読めません。高校3年間同じクラスだったのにも関わらず、あまり話したことがなかったから行動が読めないのだと思っていましたが、不来方高校から来た他の友達に聞いたところ、その友達もまた彼の行動はよく読めないと言っていました。

しかし、彼をよく知る女の子によると、彼ほどわかりやすい人はいないと言っていました。なぜ人によってこんなにも感じ方が違うのか、インタビューを通して知ることができ

たらいいと思っています。

### 1-3 ジャックの魅力

彼の魅力は、とてもマイペースで、周りにあまり流されないところです。なので、彼独自の世界を持っていて、不思議な雰囲気を出しているのではないかと考えています。なぜ不思議な雰囲気を持っているのか、自分のことを不思議だと思っているのかインタビューで知ればいいと思っています。

### 1-4 ジャックの存在

自分にとっての彼の存在は、同じ高校つながりで安心できる存在です。知り合いが少ない大学内で、高校の時の私を知っていて、普通に話せる数少ない人というだけでとても安心できました。この安心感は今でも持っています。

## 2. インタビュー

### (1) 場所・時間

大学会館 アメニティー・14:30~15:45

### (2) インタビュー結果

テーマメモを見せて・・・

中野：こんな訳でインタビューするわけだけど、何から聞けばいいのかな？魅力とか性格とか考え方が分かるようなインタビューになればいいわけなんだけど・・・

ジャック：俺は聞かれたことしか答えないから（笑）

中野：えっ！！聞かれたことにしか答えてくれないの？

ジャック：うん。（笑）

中野：酷い！！何から聞けばいいんだろ・・・あ！！友達がこんな感じにやっていたよ。（ラフを見せた）このインタビューの相手凄いいよね。ジャックだったら、人からどう思われても気にしない？

ジャック：気にする！！人間だもん。こういう人はそうそういないんじゃない？

中野：まあ、確かにね。私も人の言われたこととか気にしちゃう人だから、こういう人は凄いなと思う。

中野：こんなに話してるの不思議な感じだよね。3年間同じクラスだったのに2年までは全く会話してないしね。

ジャック：そうだよなあ～。

中野：なんでだろうね？

ジャック：少なくとも中野さんは高2まで静かで、絶対話せるようなタイプではなかった。

中野：だよなあ～。私の周り、みんな静かだったし、素出してなかった・・・。

ジャック：でも、いきなり高3になってうるさくなった！！（笑）

中野：あー、ゆかりと出会っちゃったからねー。まあ一地の私はこんなうるさいやつですよ。あ！！こー君やチャーリーに会ったのも原因の一つかな。（笑）



ジャック：なるほどね。

中野：ジャックはこー君と保育園から高校まで一緒なんだよね。私、それ知ってかなり驚いたし！！一緒に居て気が楽なメンバーとかベストなメンバーっていた？

ジャック：しょうとか扱いやすいからよく遊ぶ。

中野：扱いやすいって・・・？

ジャック：あー、あいつあまり話さないから一緒に居て楽なんだよ。

中野：こー君とかどうなの？

ジャック：あいつとはよく遊ぶ。ちばりゅーいじって遊んだり・・・。(笑)夏休み岩手に帰ったうちの半分はあいつと過ごしてたなー。

中野：実家、恋しくならないの？

ジャック：別に恋しくならない。

中野：帰って来いとか言われたいの？

ジャック：うちの親、放任主義だから特に何も言われたい。

中野：へえー。大学に来てから、ジャックのこと一人でいるのよく見かけるけど・・・。ぶっちゃけ一人でいるのが好きなの？

ジャック：あー、確かに一人でいるねー。(苦笑)でも、一人でいるのが好きじゃないう。たくさんの方が集まっているのが嫌だ。2・3人くらいで行動するのが気が楽でいいかな。

中野：なるほどねー。確かに多くの人に気を回したりするのは疲れる。

中野：なんでテニス辞めちゃったの？

ジャック：元々運動が嫌いだった。

中野：えー！！そうなの！？バドサー(バドミントンサークル)に入ってるじゃん！！

ジャック：あー。あれノリ！！

中野：テニス強かったんじゃないの？いつからやってたの？

ジャック：中学からずっと。

中野：成績は？

ジャック：県で個人はベスト16くらいかな。

中野：地区は？

ジャック：ベスト4。

中野：凄い！！続ければ良かったじゃん。

ジャック：インターハイに行けなかったら続けてもなー・・・。

中野：テニスが嫌いになった訳じゃないんだよね？

ジャック：テニスは好き。仲間内で楽しくワイワイやってるのは・・・。でも、部活は嫌い！顧問とかコーチとかが燃えていて、楽しくないから。

中野：確かにそうだね。プレーしてる私たちよりもコーチたちが燃えてる(苦笑)

ジャック：中学の時より高校の時の方がコーチとか顧問が燃えてなくて楽しかった。高校の時の部活のモットーは「楽しく」だったし。それにコズのテニス部は全国とかに出場したやつとかもいて楽しかった。でも、インターハイには行けなかったんだよなあ。

中野：そういえば、秋田大学に元盛岡市立のテニス部の人で、ジャックのこと知っている人がいたよ。〇〇って人なんだけど、覚えている？

ジャック：・・・覚えてない。

中野：何回か対戦したらしいんだけど・・・。

ジャック：自分より弱い相手は覚えていない。

中野：顔見たら分かるんじゃないの？

ジャック：顔見れば・・・ってこともない。

中野：え！？何で？

ジャック：相手に興味ない。

中野：そうなの？相手の名前とかも知らないで試合していたの？

ジャック：相手の名前を知らなかったら、強い人とかでも名前負けしないし。試合終わって、「アイツ強い人だよ」とか言われてもピンとこない。

中野：名前負けね～。私の場合、名前負けして、自分の力出し切れないうってことよくあるから、ジャックが羨ましいよ。

ジャック：名前負けって損してるじゃん！！闘ってもないのに、中学の時強かったとか、他の大会で何位だったとかで気分的に落ち込んだりさ・・・。そういうのって、やっぱ損してると思う。

私は大会とかで名前負けすることがよくあるけど、ジャックは人の名前とかを気にしないと言っていて、私とは違って羨ましいと思った。先生に「名前を知ってしまうと名前負けをしてしまうから、名前を気にしないようにしているのではないか」と指摘されたのですが、ジャックはあまり勝ち負けにこだわらず、テニスを楽しみたかったと言っていました。

中野：秋田に来てすぐ不來方会開くって言っていたけど、結局、私、ジャック、まっつの3人でしか集まってないよね。(苦笑) このメンバーでジャックの誕生日会も開いたね。サプライズにしようと思ってたんだけど、気付いていた？

ジャック：あー、中野さんのメールで薄々気付いていた。決定打は、まっつから言われたからかな。

中野：まじ！？そんなに早くから気付いていたの？ってか、何で分かったの？

ジャック：俺、洞察力と観察力あるからなー。結構人の変化が分かる。自分にとって嫌だなんて思うような話をされる前は、なんとなく勤が働いて、自分から他の話をふる。最終的に自分が苦しまないように話をそらして、聞かないようにするのは得意だよ。(笑)

中野：何か凄いね。例えば私とか分かりやすい？

ジャック：想像が付きやすい。テニスとかもよくコーチがアドバイスしてくれてたけど、それ聞かないで勤でやってたし！！

中野：私やまっつは、ジャックのことを不思議で分かりにくいつて思うんだけど、自分のことは不思議というか変っていると思う？

ジャック：不思議だとは思わない。でも、ひねくれ者だったり、皮肉屋だとは思う。とりあえず根性は曲がっている！（笑）

中野：そうだったの！？ジャックのことよく知っている女の子は分かりやすいって言うているんだけど・・・。

ジャック：どうでしょうね～

中野：自分の素を出したりしないの？

ジャック：自分の素が分からない。

中野：なんで？

ジャック：よく嘘をついているし・・・。嘘ついたり、だましたりするのは得意だよ。

中野：普段は？

ジャック：どうだろうね～

人によってジャックの印象が違うのは、ジャックが人によって素の出し方が違うからだと思った。この時、私はまだまだ彼に信頼されていないんだなあと感じた。

中野：ジャックは人を嫌うことってある？

ジャック：あまりないかな。友達が嫌いな人がいたとしても、その人を嫌いになるってことはない。その人と直接関わらないし。むしろ、俺に価値観押し付けるなと思う。

中野：今困っていることとか、不安に思っていることとかある？

ジャック：現在進行形でレポートがやばい！！

中野：今日インタビューなんかしちゃってごめん！！

ジャック：何とかなるから大丈夫。とりあえず、大きな不安はない。

中野：最近授業出てないみたいだけど単位とか大丈夫なの？

ジャック：前期は数学落とした。

中野：なんで？

ジャック：前日までテストあること知らなくて、勉強してなかった。

中野：後悔していたりしないの？

ジャック：後悔してない。必要以上に考えない。くだらないことは考えない。引きずらなきゃいいじゃん。重いと思ったら切り捨てたり・・・。割り切って考えた方が絶対いい。

中野：出席日数は大丈夫なの？

ジャック：やばい！！（笑）

中野：頑張って起きなよ～

ジャック：無理！欲望には忠実だし。お布団が優先（笑）

中野：目覚まし時計かけるとか、努力はしないの？

ジャック：ロフトに寝ていて、目覚まし時計ははしご降りたところに置いているんだけど、止めてまた寝ちゃうんだよね。

中野：遠くに置いている意味ないじゃん（苦笑）

ジャック：お布団が気持ちいいから悪いんだ！！

単位を落としても割り切って考えているジャックの考え方が羨ましいと思った。私は、後々まで引きずってしまうので、そんな考え方ができるジャックは魅力的だと感じた。

中野：最後に、自分の世界って持っている？

ジャック：持っている。

中野：どんな世界？

ジャック：引きこもりの世界。

中野：それってどんな世界なの？

ジャック：家に帰ってひたすら、ネットやったり・・・。

中野：外出しようよ！！外！

ジャック：嫌！冬は寒いし、夏は暑いし日焼けする。

中野：テニスやってた時は普通に外出してたでしょ？

ジャック：もう日焼けするのは嫌だ。お肌に悪いでしょ～。(笑)

ジャック：俺から最後に質問していい？

中野：どうぞ！

ジャック：俺を動物に例えると？

中野：野良猫！！何にも縛られていなくて自由気ままな感じが猫っぽい。ジャックは自分のこと何だと思う？

ジャック：自分でも猫だと思う。犬だとかまってあげないと可哀そうだけど、猫だったら寂しくなったら自分から人にすり寄っていくし。

最後にジャックから質問されるとは思っていなかったのが驚いた。

自由気ままな野良猫の感じが本当にジャックそのものだと思った。

\*チャーリー、まっつ、こー君、ちばりゆー、ゆかり、しょう君は高校の時の友達

### 3 インタビューを終えて

インタビュー前はどんなことを聞いていいのか全く分からず不安でしたが、ジャックはどんなことにも答えてくれてとても楽しいインタビューとなりました。インタビューを受けてくれたジャックにはとても感謝しています。

このインタビューを終えて、自分とは違うジャックの考え方や性格を改めて知ることができました。ジャックについてインタビューで分かったことは、とてもあっさりとした性格の持ち主だということです。自分なりの考え方をもち、他の人の考えには流されず、すべてのことを割り切って考えていました。私は、野良猫は自分の考えをきちんと持っている中で、自由気ままな生活をしていると思います。そんな野良猫の姿がジャック自身と重なって見えます。彼を不思議だと思う背景には、野良猫に似ているということが関係しているのではないかと思います。

私はすべてのことに対して、割り切って考えることが出来ないので、自分とはまったく違う考えを持つジャックに魅力を感じたのだと思います。

また、人によってジャックの印象が違うのは、ジャックが人によって素の出し方が違うからだと思いました。彼を理解しきれていない私は、まだ信頼しきられていないので、素のジャックを見せてもらえてないのではないかと思います。

考え方の全く違うジャックからは、これからも自分のものとは違う色々な考え方を学べそうだと思うている。

#### 4 日本事情を受講して

この授業を始めたばかりの時、6400字のレポートをどのように書けばいいのか全く見当がつかず、レポートを書ききれぬのかとても不安でした。しかし、テーマメモから始まり、ラフ、下書きと提出を重ねるごとにどんどん枚数が増えて、より内容の濃いレポートが仕上がっていき今このような形で提出できたことに、とても達成感を感じています。グループのみんなや先生からのアドバイスのおかげでもあると思います。

このグループは始め留学生3人、日本人2人でだったのですが、留学生が1人やめてしまい、最後のレポート提出まで5人で活動できなかったことが残念です。

また、この授業ではレポートのことだけでなく、韓国や中国に文化についても留学生から聞くことが出来て良かったです。この授業がなければ、留学生の友達を作ることが出来なかったと思うので、この授業を受けて良かったと思います。

# 「友」

G6・全ミヒョン

## 1. 十年間の友達

- 1-1. ハンナとの出会い
- 1-2. ハンナとのエピソード
- 1-3. ハンナはどんな人？
- 1-4. インタビュー動機

## 2. インタビュー

- 2-1. インタビュー概要
- 2-2. 決意と実行力
- 2-3. 人との付き合い
- 2-4. 表と心の姿

## 3. インタビューを終えて

## 4. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

## 1. 十年間の友達

### 1-1. ハンナとの出会い

彼女と知り合ったのは中学1年の春でした。中学に入学して初めの日、ちょっと早く着いてしまっただけで一人で教室にいました。漫画を描くのが好きで、ノートに漫画を書いていたら他の学生たちがいつの間にか来ていました。騒がしい教室の中で、初めて隣になったのが私がインタビューしようとする友人です。

### 1-2. ハンナとのエピソード

普段は仲良く過ごしますが、時々喧嘩することもあります。最も長かったのは宗教に関わったことでした。友達は小さい頃からクリスチャンで日曜日にはいつも教会に出るんですが、私は無宗教で日曜日は昼まで寝るのが好きなんです。中学の時一緒に教会に行こうと何度も誘われて困ってしまいました。それがあとでは喧嘩になって一週間もお互い話しかけないこともありました。今はあまり互いの宗教については干渉しないようになりましたが、日曜日に教会のため遊べなかったり遅くなったりするとやはりちょっと嫌な感じがします。

また、中学の時から待ち合わせの時間の問題で小さな喧嘩をしたりいらいらだったりしますが、

そんなものはすぐ解けていつ喧嘩したかのように笑ったりします。一緒にいると何もしなくても理由もなく楽しくなる人です。

### 1-3. ハンナはどんな人？

高校卒業の後は違う大学に入ることになりましたが、自分の学校の友達を紹介してくれたり一緒に遊んだりしました。元は日本語科でしたが自分のやりたいものではないと思って学校を辞めて、今は専門大学の建築インテリア科に通っています。この前は自分がデザインした家具を作って展示会に出ました。1年生たちの展示会だったそうです。私は日本に行けなかったんですが、家具の作り過程の写真を見て本当に頑張っているなあと感じました。展示会以外にも色々課題が多いそうで、板材を切るとかパソコンのプログラムでデザインを書くとか忙しいようです。

イベントなどが好きで友達の誕生パーティなどもやってくれるし、明るくて活発な性格で学校でも人気もあるようです。前の学校ではなぜか男の友達ばかりで、いつも男に囲まれていました。

### 1-4. インタビュー動機

思えば、初めて会ったときは趣味や性格などずいぶん似たようなところが多かったのですが、今は興味を持っていることやファッションスタイルなど違うところがよく見られるようになりました。たぶん高校の卒業からそうなり始めたのではないかと推測しています。私は自分を飾るのに全然興味がなくて小説やマンガを買うことにお金を消費したんですが、彼女は化粧品や服などに興味があって自分をきれいにすることにお金を使いました。

しかし、違いにも関わらず二人の間に通じるものがあるというのが人との付き合いのおもしろさだと思います。始めは話しやすいからインタビューしようと思ったんですが、その話しやすいからこそインタビュー相手として最適ではないかと考えて見ます。

## 2. インタビュー

### 2-1. インタビュー概要

●1次インタビュー時間・手段:2008年12月19日16:00~・ネットメッセージ  
●2次インタビュー時間・手段:2008年12月27日18:00~・ネットメッセージ  
インタビューは2度実施しその結果をまとめました。大きな質問は二つでしたが、話したことをまとめると大まかに三つに分けるようになりました。

### 2-2. 決意と実行力

上で彼女が学校を辞めたと書きましたが、私としては一時というか今でもよく考えることです。文科大学に進学することについて高校の時から悩んでいました。この頃にも勉強しているものに自信があまりなくて辞めるかどうかいつも悩んでいますが、結局辞める勇気がなくて

周りに流されるような日々なんです、彼女はそうしなかったんです。自分がやりたいものを見つけそれをするために努力していました。

それで、そこについて質問しようと思いました。

M: 日本語科を辞めて建築に移ったきっかけは何ですか？何というか、知っていると思うけど私も学校辞めたかったけど、結局今まで通っているから。ちょっとうらやましいというか、よく表現できないけど。

H: え、きみはなぜ辞めたかったの？

M: うん、私はやっぱりマンガやりたかった。今でもそうだけど学校は結局辞められなかったけど。

H: 私はもともと大学選んでのがあまり行く学科がなかったからだった。

趣味で習っていた日本語が成績に何か役に立つかなと思って日本語科にしたけど。

M: じゃ、辞めることになったのは？

H: うん、そうやって決めた学科だったから、ただ友達と遊ぶのが楽しみだったけど懐疑を感じた。

M: どんな懐疑？

H: 私がここを卒業して何をするかなとか。

M: それは私も感じている。

H: あるのは科代表のとき仕事したぐらいだけど。

勉強にも興味なくなったし、何かできるのになかと思っ探してた。

M: 建築に興味を持ったのがそのごろ？

H: ううん、実は建築には初めて大学の願書を出すときも出した。

でもそのときは行くところなかったから出してみただけ。

興味を持ったのは2年のとき、休学しようとしたころ。遊んでるうちに。

M: じゃ、そのときになにかきっかけになるだけのことがあった？

H: いや、別になかったようだけど。ただ、何が一番私の適性に合う仕事かなって考えた。

休んでいるうちはそればかり考えながら、お金稼ぐために夜も昼もバイトしてたね。

M: やっぱり将来希望はインテリアの方へ？

H: インテリアでもエクステリアでも興味はあるから。どっちでもいい。

建築デザイン事務所を計画中なの。一応、卒業した後就職して経歴を積んだ後でね。

創業するごろまた大学に行こうかなって。

M: 大学はまた建築に？ それとも経営？

H: 建築。経営は副専攻で勉強するとかするつもり。

M: 今の大学をまた通うんじゃないよね。

H: 当然でしょ。今の大学を選んだのはちょっと後悔している。

M: なんで？教授が気に入らないの？

H: 別にそんなことじゃないけど…。周りの人たちから得られるものがないから。

M: そうなんだ。ぜひ成功するように。でも結構いろいろ考えていたよね。ちょっと意外かも。



ハンナが学校を辞める前に学校を辞めるつもりなんだとか聞いたことはありましたが、このように理由やそのことについて詳しく聞いたのは初めてでした。実は今ハンナが通っている学校はあまり評判がよくないのでわざわざ入ったことを少し蔑んで思ったこともありました。しかし、対話してみて彼女の「やりたい」と思ったことを実行する力を感じてそのような考えはあまり意味ないと思いました。これについて聞いてよかったですと思います。

ハンナが学校を辞めた後私の両親にそれを言った時、否定的な反応だったので私が考えることをはっきり言えずじまいでした。それでハンナの御両親はどうだったのか聞いてみました。

M: 学校辞めるときにご両親は反対しなかった？

H: 初めは休学すると言ったから、辞めるときは喜んでた。

M: なんで辞めるのに喜ぶの。

H: 進路もまともに決められないまま大学を2年も通ったけど(休学すればそれに1年増えるし)、でも一生懸命勉強したわけじゃないし、科代表なんかやってね。だからいっそう辞めると言ったら喜んでた。

ハンナの御両親は反対はおろか、むしろ喜んだそうです。両親に学校を辞めると言い出すことも難しいだろうと思いますが、それを言って喜んでもらえるなんて。おそらく自分のやりたいことをはっきりしていたからではないかと思います。

## 2-3. 人との付き合い

私はいつもハンナといると楽しく感じますがそれはなぜだろうか、そしてなぜ彼女の周りにはいつも多くの人がいるのか、考えてみました。

彼女はいつも人前で出て何か推進したりしています。「一ヶ月に一度は高校の友達で遊びましょう」とか「誕生日にパーティーしましょう」とか私はあまり気にしてなかったことをやてしまいます。ハンナが三兄弟の長女だからでしょうか、人に気遣うのが見に染みっているようです。友たち間では時々お母さんみたいだと言われることもあります。

彼女のお母さんみたいな気遣いや心地よさが周りを楽に感じさせるのでしょうか。

M: 友達とかよく気使ってくれるけど、それはなんで？

H: 天性と思う…。でも、最近は性格変わったみたい。

M: どんなふう？

H: きみたちと遊ぶときはそうじゃないかもしれないけど…。ちょっときみみたいになった。

なんというか、多くの人と付き合わなくて少しの人とばかり遊ぶとか、お金あまり使わないとか。

M: 微妙に悪いところ似ていくね…。

H: ううん。いいと思う。今までは出しゃばるって悪口言われたし。

M: 具体的にはどんな事があった？

H: 友達がある人と仲が悪くなって何とか解決してあげようとしたけど逆に私に怒ったり、

友達の誕生日パーティとかやって悪口言われたり。でもそういうのは高校のときに多かったみたい。

M:へえ、なんでだろう…。

H:女の子ってそういうのあるみたい。

M:そっか。まあ、私たちの誕生日だけ気にしていればいい。

H:それで、大学では女の子とあまり仲良くなれなかった。そのときの傷跡で。

いい意図でやっても女の子は誤解するのが多くて。

M:大学の友達が男の子ばかりだったのはそんな訳があったのか…。

H:そうすると「周りに男が多すぎる」って女の子達が陰でうわさするのを聞いてしまった。

それで、女の子達とも仲良くならなきゃと思ってちょっと付き合ってみたけど、半年で喧嘩したの。

M:どうして喧嘩したの？

H:あの子達が利己的過ぎてそこについて話したら喧嘩になった。後で私の方から謝ったけど受け入れなかったけど。

M:でも先に謝ったのはえらいじゃない。

H:だって先に謝る方が勝ちだと言う言葉もあるし、喧嘩したのは悪かったなと思って謝っただけ。

それと私の彼氏をこき使ったりして喧嘩したこともあるし。また、自分のはさみあるのに壊れるかもと言って人のはさみ借りるとか。自分のものは惜しみながら人のはやたらに扱ったり。

M:うん。それは誰でも嫌いになるよ。

H:(笑)こうやって陰話しになったりして。陰話するのは好き。

あれは私が唯一持っている女らしくて利己的なもので、前で殴ったりしない正義の行動だと思う。

M:陰でこそこそするのが正義なのかよ。

H:でも前で話して殴ったりすると痛いし、酷かったら法律にもかかるでしょ。

M:なんか新しい解釈だね。

H:まあ、悪口される子は理由あるから。それで、時々私は悪口されることやってないかなと省みてる。

M:えっ、そうなの？私はあまり気にしないけどね。

H:私はすごく気になる。

M:じゃ悪口されたとかして、そういうものに気をつけて行動するしたりする？まあ、気になることとか。

H:友達が多いからどこかでそういうのは聞いた次第私の耳にも入る。でも私聞いただけでは終わらないから引かかったら相手が疲れるようになるけど。

M:気をつけると言ったのに報復もあるの？

H:私が悪かったことはほとんどなかったから。

M:何、この自信感。

私は楽に感じる彼女の性格でしたがそれが気に入らない人もいますね。今までは知らなかったですが、こう聞いてみたらそうかもしれないなと思います。考えてみれば高校の時もそのことでトラブルがあったような気がします。でも喧嘩した後先に謝るとかいうのは彼女らしいところですよ。

性格が変わったと言っていましたが、やはり私たちといるときだけは変わらないで欲しいです。仲良しの友達の中でそれでも頼りになるのはハンナぐらいなので彼女にはいつもお母さんについて欲しいと少し利己的に考えます。

## 2-4. 表と心の姿

H: まあ、私人前に出るの好きかも。

M: なぜ好きなの？

H: 何かするときに何も知らないでいるよりは人と付き合うほうがいいと思うから。

M: 私は面倒だし、気が弱くて好きじゃないけど。

H: 私はそれだけ私に自信があるから。自信感と偉ぶることで生きてる。

M: その自信感の根拠はどこなのよ…。ちょっとうらやましいところもあるけど…。

H: でも実は自信ない方が多いよ。表にでも偉ぶらなくちゃ。そんなコンセプトと言うか、他の人が私のことを愉快的な人と感じるように。いつも自信なくて劣等感に落ちると自分に懲りるでしょ。

2次インタビューでなんとなく話したことなんですが、短いけどハンナのことをよく現れていると思います。私として考えるには2-2でハンナがトラブルになったのはこの偉ぶる性格のせいもあるのではないかと思いました。

しかし、そのような行動には私は知らなかった理由がありました。いつもどこか自信感を張っているけど根拠がないから突っ込んでしまいましたが、彼女にしてはそれが武器のようなものだったんです。私が恥ずかしいとか自信ないとか言っているときに彼女は根拠なくても、人には自信のある姿を見せるために頑張っていたのかもしれない。

## 3. インタビューを終えて

あまり親しいのでインタビューしようとするとなんかおかしかったですが、思ったよりはいろいろ答えてくれてよかったと思います。でも対話を続けていくとか流れに合う質問をするのが難しかったです。整理しながら改めて見ると、対話の中で次の質問に流れるところが不自然だったりしてやり直したいところもあります。インタビュー手段もメッセージだったのも、微妙な表情や行動のキャッチはできませんでした。二人が同時に入力して対話が混じったり、ちょっと集中できなかつたりした部分もあってそんなところは残念だと思っています。

彼女は周りに気を使ってくれる優しい性格ですが、私はあまり周りを気にしてないから、彼女の苦痛や悩み事もよく知りませんでした。最近の話ではそれをもっと感じました。大学が違うから今頃の彼女の生活などもよく知らないし、あまり気にしてなかったのも少し反省する気持ちになりました。

ちょっと意外だったのは彼女の自信感のこのでした。いつも元気で偉ぶるような態度だったので、本当に自信に溢れていると思いました。彼女にとってはそれが一つの武器のようなも

のでした。実は弱いところがあってもそれを元気な態度と自信で乗り越えるような彼女に感心しました。

このインタビューで終わるのではなく、また彼女に隠されているところに触れてもっと親しい仲になりたいと思います。

そういえば、このレポートを書いている間に2009年になって、ハンナと出会ってから10年目になりました。ハンナに言ってみたら信じられないと言いました。私ももうそんなに経ったのかと不思議な感じです。他の中学校や高校の友達とはクラスが分けられたらあまり話さなくなったり挨拶もせずにすぎて行ってしまうことがよくあります。でも10年という長い間にいつ久しく側にいてくれました。これからもいい友達としていつまでも過ごしたいと思います。

#### 4. 「日本事情Ⅱ」を振り返って

もう最終レポートも終わりましたね。最初は6400字がすごく多く感じられましたがどんどん書いて進めたらもう終わりになりました。インタビューするというのも初めの頃には漠然としてどうすればいいのかわからなくて困ってましたが、やってみると友達と深い話ができすぎてよかったと思います。普段は話さないことを聞くことができました。この機会をくれたこの授業や先生に感謝します。

また、間違ったところや誤字などの指摘、このレポートを書くのにアドバイスしてくれたグループのみなさんにもありがとうございます。でも私は対話するのがあまり上手ではないのでよく話せなかったですが、もっと話して仲良くなればよかったなと今になって思います。

忘れっぽいなので授業コメント忘れてたり、提出の締め切り過ぎてしまったりしました。すみませんでした。

最後に皆さんご苦労様でした。